

5. 認知症などの精神・行動障害

文献

澤田規、澤田千浩、福田文彦、ほか. 高齢者の知的機能および日常生活動作に及ぼす TEAS 治療の効果について *全日本鍼灸学会雑誌* 2001; 51(1): 69-80. 医中誌 Web ID: 2001181197

1. 目的

高齢者の知的機能と日常生活動作の低下に対する TEAS の効果の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (封筒法) (RCT-envelope)

3. セッティング

N 病院、京都、日本

4. 参加者

脳卒中後遺症患者を除外した 70 歳以上の高齢入院患者。

5. 介入

Arm 1: 運動療法群 (44 名)。

Arm 2: 運動療法+TEAS 併用群 (49 名)。運動療法に加えて、左右の合谷 (LI4)–手三里 (LI10) に 2Hz 通電を 15 分間、週 3 回 8 週間施行した。

12 名の患者は試験開始後退院したため、解析から除外した。

6. 主なアウトカム評価項目

改訂長谷川式簡易知能評価スケール (HDS-R) および老人行動評価尺度 (DBD Scale)

いずれも TEAS 治療開始前、4 週後、8 週後に測定した。

7. 主な結果

HDS-R は、両群とも治療介入開始前に比較し 4 週後、8 週後では有意に改善したが ($P < 0.001$)、群間比較では有意差を認めなかった。HDS-R のスコアによるサブグループ分析においても有意な差は認めなかった。老人行動評価尺度においても全く同様な結果を示した。

8. 結論

運動療法は高齢者の知的機能と日常生活機能を改善させるが、TEAS 治療を併用することによりその効果をより高める。

9. 鍼灸学的考察

著者らは、TEAS の治効メカニズムとして脳血流を増加させる可能性について言及している。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

本研究では、通常 of 理学療法に加えて TEAS を併用することが入院高齢者の知的機能と日常生活機能改善に如何に寄与できるかをみた貴重な研究である。また、HDS-R によって層別化して割付をした上、群間の分析に加えて層別化した上での分析を行い詳細に検討している点についても評価できる。著者らは、TEAS が高齢者の知的機能と日常生活機能を改善させると結論しているが、本論文の結果は介入の前後比較からみると改善しているということであり、群間比較によって併用群のほうが単独群に比べて効果的であるという結果ではない。一般的に、介入後の状態は、介入そのものによる影響以外に多くの要因によって左右される。例えば、自然に改善したり患者ごとに症状が変動したりすることも考えられる。また、いろいろな環境要因や併用している薬物などによる影響もある。従って、前後比較による結果はバイアスの関与が考えられ、その点につきさらなる検証が必要である。

12. Abstractor

若山育郎 2011.9.9